

# NARO Research Prize 2008

## 表彰

### 二条大麦の赤かび病防除適期は 穂揃い10日後頃の葍殻抽出期である

吉田めぐみ<sup>1)</sup>、中島隆<sup>1)</sup>、河田尚之<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup>九州沖縄農業研究センター・赤かび病研究チーム、<sup>2</sup>九州沖縄農業研究センター・大麦・はだか麦研究チーム (赤かび病研究チーム(併任)) )

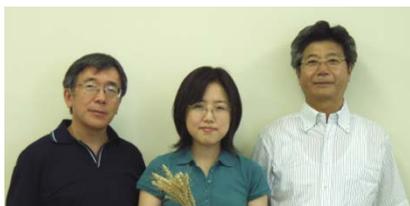
#### 研究の目的・背景等

食品の安全性を確保するために、麦類赤かび病によるかび毒汚染を低減させる効果的な防除、特に薬剤の適期散布が求められている。大麦の赤かび病防除適期は、従来、品種によらず穂揃い期(ほぼ開花期に相当)とされてきたが、これは十分な根拠に基づいていないため、再検討した。

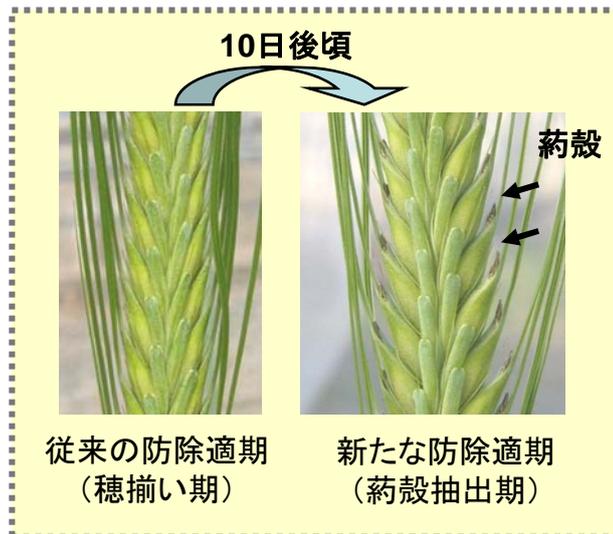
#### 研究の概要

国内の大麦品種は、六条大麦のほとんどが開花期に葍殻抽出する「開花受粉性」であるのに対し、二条大麦はすべて「閉花受粉性」で、穂揃い期にほぼ相当する開花期には葍殻抽出せず、その10日後頃に、葍殻(受粉を終えた葍の殻)が穎花の先端から押し出されてくる。二条大麦ではこの「葍殻抽出期」が赤かび病およびかび毒蓄積に対し急激に感受性が高まる時期であり、赤かび病防除適期であることを明らかにした。

葍殻抽出期に  
病原菌を接種した  
二条大麦の発病



中島隆、吉田めぐみ、河田尚之



農研機構

NARO 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構

